

【校訓】協心 【教育目標】こころをひらき みらいをひらく
ひろく考える子ども みんなにやさしくできる子ども 心と体をきたえる子ども



かけはし

太田東小学校学校報
令和6年度 No.14
2024. 6. 27

アセスメントの結果を参考にしています。

文科省では、<全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。>と述べています。そのために、今年度、本校では、学習面と学校生活におけるアセスメント(客観的実態評価)を行いました。

◇学習面のアセスメントについては、5月～6月にかけて、国内大学の研究室が作成している国語、算数のスクリーニングテストを2～6年生で行いました。

*国語<香川大学大学院教育学研究科特別支援教室>

*算数<筑波大学、松本大学教育学部>

スクリーニングテストとは、現在の子どもの学習の習得状況を把握することができる簡便なテストのことです。

このテストによって学級の児童生徒全体の学習状況を把握したり、結果が低い児童・生徒に対してはつまずきの状況や原因をとらえ、指導に役立てたりすることができます。

国語は「聞くこと、読むこと、書くこと」等のテスト、算数は「足し算、引き算、掛け算、割り算」のテストで、時間内にどのくらい正確にできるかをみています。

個人の結果については、7月からの保護者面談で担任からお伝えしますので、今後の家庭学習支援の参考にしてください。

「全校体力テスト」も体力・運動能力のアセスメントです。(6/19)



◆学校生活のアセスメントについては、5月～6月にかけて、環境適応感尺度「アセス」(ASSESS<広島市教育委員会、広島大学大学院教育学研究科>)を使用し、1～6年生で行いました。(※1～2年生は参考資料)

「アセス」で評価できるのは、学校への「適応感」です。

「適応感」は、「個人と環境の主観的な関係」のことで、「適応感が低い」場合、それは、「本人がSOSを発信している」ということになります。

このアセスでは「本人が感じているSOSの度合い」が分かります。教員の観察や学習上のデータに、このSOSの度合いを加え、よりの確かな支援を構築していくことにチャレンジしていきます。

個人の結果については、7月からの保護者面談で担任からお伝えします。今後の支援の参考にしてください。

5・6年生のみなさん、プール清掃ありがとうございました!(6/18)

